

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1990100016
法人名	社会福祉法人 恵優会
事業所名	グループホーム青葉町日和
所在地	〒 400-0828 甲府市青葉町14-15 電話番号 055-236-5155

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年2月4日

## 【情報提供票より】平成19年11月28日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	2人 非常勤 6人 常勤換算 7人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り
	2 階建ての 0 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	40,915 円	
敷金	■有( 120,000 ) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有( ) □無 有りの場合 □有 □無 償却の有無 □有 □無			
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり - 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年11月1日 現在

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小宮山整形外科、七沢歯科医院、甲州訪問看護ステーション
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年12月25日

市街地の住宅の広がる中に位置し、鉄筋2階建の2階部分がホームとなっており、デイサービスも併設されている。南側は市民グラウンドに面し、日当たりがよく正面には富士山も望める。窓の外側は利用者が個々に植えた季節の花が咲き誇り、居間等共用空間と一体化し、その場を穏やかな雰囲気させている。利用者は個々の尊厳が保たれ、その人らしく穏やかな日常生活を送っている。医療体制は毎週定期的に訪問看護師による健康チェックを受け、緊急の場合でも365日・24時間の対応が確立されている。終末期についても指針を作成し、ターミナル医療機関と連携をとり、家族と共に納得のいくケアを構築している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価結果をミーティング等で確認し、改善項目の内、玄関の鍵は夜間のみ施錠することにした。定期健康診断は全員が毎年実施することを決め、前向きに検討し、改善につなげた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者及び職員は評価の意義を理解し、項目毎に意見を出し合い自己評価に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームでの生活の様子や取り組んでいる内容等を報告し、家族の代表から意見や要望を聞く。また外部評価結果・予定行事・地域との交流について等、検討課題について協議している。議事録は毎回家族や市の担当者へ送っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時にホームでの生活の様子や健康状態等を伝えると同時に、意見や要望を聞くように努めている。玄関に意見箱を設置してある。利用者の暮しぶりや行事・外出時の様子を載せた「日和便り」を毎月発行している。金銭の収支は個々に明細を記録し管理されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地区の行事や防災訓練に参加している。散歩時には顔馴染みになった地域の人と挨拶や会話を交わしている。また自治会を通し「日和の紹介」を回覧板で回してもらったこともある。地域との連携については、運営推進会議へ自治会長に出席を依頼し、ホームへの理解をより深めてもらい、日常的に交流が図られるよう前向きに検討中である。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム青葉町日和

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を中心に全職員が、地域密着型サービスについて話し合い、これまでの理念を見直し「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを支えていく」を柱としたホーム独自の理想を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の目につきやすい場所や共用空間にわかりやすく掲示し、管理者・職員はミーティング等で日々理念を共有し、実践の場につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、納涼会・運動会・防災訓練に参加している。また「日和の紹介」を回覧板で回してもらったこともある。散歩時に挨拶や会話はあがるが、日常的な交流については課題を残している。自治会長に運営推進会議への出席依頼を検討中である。	○	自治会長に運営推進会議への出席を依頼するのと併せ、メンバーとしての依頼も考慮に入れ、利用者があたりまえに地域の一員として暮らし続けられるよう、積極的に地域に働きかける取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は意義を理解し、自己評価に取り組んだ前回の評価結果については、ミーティング等で確認し、玄関の鍵は夜間のみ施錠し、定期健康診断は全員が実施する事とし、改善につなげた。昼食の弁当については、開所時からケアを優先という理由で改善は難を極めている。	○	運営者・管理者は評価の意義と理解を深め、理念に沿って利用者の視点に立ち、改善に取り組むことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し、日常の様子や取り組み、また外部評価結果を報告し、家族の意見を聞いたり、検討課題について協議している。会議の結果についてはミーティングで確認し実践に活かしている。議事録は家族や市の介護保険課に送付している。	○	自治会長のメンバーへの依頼を考慮に入れ、ホームの意義が理解され、地域の一員として地元との交流が密となるよう、運営推進会議を活かした取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課に運営に関する質問や確認事項についての相談をしている。運営推進会議の委員の依頼をしたが実現には至らず、介護保険課職員が臨時的に出席したことがある。毎回議事録は送っている。連携は十分とまでは言えず、課題として検討中である。	○	ホームの運営や実情等積極的に市の担当者に伝えながら関係づくりを深め、利用者のサービスの向上に活かされるよう取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時を利用し、暮らしぶりや健康状態を伝えたり、毎月「日和便り」を発行し、日常の様子・行事・外出等の写真を載せ家族に送っている。また金銭の収支については、個々に明細を記録し、毎月利用請求書の発送と共に家族に報告し同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回夏と冬に家族会を実施の際や、運営推進会議での家族の代表から等、個々に意見を聞くようにしている。また玄関に意見箱を用意し、気軽に言ってもらえるよう伝え、サービスの向上につなげている。	○	家族の意見・要望は前向きに受け止め、実践に活かす姿勢が重要と考える。家族会では、職員は席をはずし家族同士で話し合う時間を設け、出された意見は代表者から聞き、運営に反映されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大きな異動は無いが、利用者や家族に報告と説明をし、馴染みの関係が壊れないように、2～3週間職員を増やすようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に交代で受講し、不参加者は報告を聞き資料に目を通して。また管理者や資格者が必要に応じ助言や指導を行い、後進の育成に努めている。しかし受講記録や資料の保管が確認されず、受講の事実が不明瞭である。	○	受講の内容・独自の勉強会等・事実の記録をファイルなどで明確にし、また報告書や資料等はいつでも閲覧できるようにし、周知徹底を図り、全職員がその内容を共有することが望ましく思う。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会や会議等に参加し、定期的に交流を図っている。他のホーム職員数名の見学訪問を受けたことはある。同業者相互の訪問交流の実施を前向きに検討中である。	○	運営者・管理者は同業者との連携の必要性に理解を更に深め、スタッフ同士の勉強会や交流等の場を設け、実践につながる情報や意見交換をし、質の向上を目指した取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に自宅等を訪問して本人と面会し、家族等から話を聞く、またホームの様子を見学してもらいなど、馴染みの関係づくりをしてから利用を開始する。併設のデイサービスからの利用者は自宅までの送迎をホーム側で行い関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に得意分野で活躍してもらえるよう、日々、場面づくりに努めている。暦を参考にし、行事の意味や内容を聞きながら、正月飾り・月見だんご等ついたり、昔の歌の詞の意味を教わることもあり、職員は人生の先輩から豊富な知識を学び、共に支え合う関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの趣味や嗜好を考慮し、日常の暮らしの中に反映させている。居室での音楽鑑賞(クラシック)・読書の場面支援また確認が困難な場合はアセスメントを基にし、家族の考えやセンター方式の日々の記録の中から拾いあげ支援につなげている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき本人や家族等から意見や意向を聞き、カンファレンスにて確認しながら介護計画書を作成している。また時系列に留意点を記入した実行表も作成し、利用者3名に職員2名のチームケアを実施している。介護計画書への家族等の確認のサインは一部不明瞭である。	○	介護計画書はその内容を家族も把握することは大切であり、ホームと共有することにより、本人にとってもよりよいケアにつながるものと考え。介護計画書に家族の確認をサイン等で明確にされることが望ましく思う。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月実施しているカンファレンスにて意見交換をし、出された意見を反映し、見直しにつなげている。また状態の変化や職員の気づき等により随時見直しを実施している。家族にはその内容を報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって主治医の受診に同行・希望の洋服を求めに同行・お姉さんが入所の施設へ同行・また一人暮らしをしている奥さんがいる自宅へ定期的に同行等それぞれ送迎しながらの支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に主治医がおり、受診には家族が同行している(職員の場合もある)毎週定期的に365日・24時間体制の訪問看護ステーションの看護師による健康チェックを受け緊急時でも適切な指示と協力医療機関の医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・協力医療機関・訪問看護師等の理解と協力を得て指針を作成し、カンファレンス等で確認し、その方針を全職員が共有している。また家族や利用開始時には終末期についての方向性を確認している。今までに1名のターミナルケアの支援を終了している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書やプライバシーに関わる書類は鍵のかかる書庫に保管し、居室は見学者には見せないことを原則としている。(鍵をかけている利用者もいる)入浴・排泄・食べこぼし等は周囲に配慮しながら、さりげない介助に努めている。また話題も個々が不快感を持つような内容は避けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の状態に合ったペースを尊重し、その人らしい生活となるよう支援している。散歩・買い物・テレビ(相撲・マラソン等)・音楽鑑賞・読書・その他共用空間での会話も多く仲間同士・友達づくりも活発である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ物を食べながら、和やかな雰囲気づくりへの配慮に努めている。朝食・夕食は配達された食材で職員が作る事が多い(畑で収穫した野菜も加わることもある)行事食・郷土食・誕生日の特別食もあり、利用者は簡単な準備や片付け等を行っている。昼食はケアを優先し業者から弁当が配達される。	○	食事は生活の中で重要な位置にあり、買い物等準備から後片付けまで個々の力量に合わせ、職員と共に行うことが大切と考える。運営者・管理者は職員の配置も考慮に入れ、利用者の視点に立ち、弁当についての検討を重ね、個々の自信や喜びにつながる支援に取り組まれることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに午後入浴しているが、希望があればいつでも可能である。どうしても拒否する場合は、訪問看護師のアドバイスを受けながら脱衣場まで誘導することもある。個々の状態に合わせて介助浴・見守り支援を行っている。		
。					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け・茶わんふき・洗濯物たたみ・花の手入れ、また野菜の作り方の指導等個々が得意分野で活躍できるよう場面づくりに努めている。また月2回、音楽療法の訪問を受け、クラシックや「千の風にのって」等合唱をし、利用者のお気に入りの時間となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や個々の希望による買い物(日用品・ケーキ・本・原稿用紙・文具等)・その他年間を通し、お花見・もみじ狩り・梅園や博物館等、ドライブをしながら季節感を味わっている。また面会に来た家族とコーヒーを飲みに行く利用者もいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の出入りは誰でも自由に出入りができる。職員の見守り支援の連携は確立されている。どうしても外の様子を見たいという場合は職員も同行する。夜間のみ鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、年2回昼・夜を想定し実施している(4回したこともある)同時に救急通報装置の点検も行う。また備品も用意してある(非常食・医薬品・携帯ラジオ・懐中電灯等)地元の訓練には職員も参加している。今後の訓練については、自治会や消防団に協力を依頼中である。	○	地域住民の理解と協力が得られ、合同訓練の必要性も考慮に入れて、運営推進会議の機能を活かし、自治会や消防団に積極的に働きかけ、その体制づくりに取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量を確認し、特に食事が少ない場合は主治医に相談し、薬等の処方を受ける。また水分摂取が困難の場合は、ゼリー飲料にて対応している。献立は開設以来四季の老人食の本をベースに利用者の希望を取り入れている。栄養士等専門家によるチェックは受けていない。	○	栄養バランス確認のためにも、定期的に栄養士に栄養士等専門家によるチェックやアドバイスを受けることが望ましく思う。実現に向けての取り組みを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂にはソファ・テーブルが置かれ、時計・日めくりも目につきやすい位置にある。壁には大きな絵画が飾られ、調度品や対面式台所も家庭的である。クリスマスツリーが置かれ、窓の外側には個々が植えつけたパンジーが咲き誇り、季節感のある共用空間は自由に語り合える場となっている。トイレの鍵が不具合であった。	○	日常生活の中で必要としている機能に不具合が生じた場合、時が経過すると利用者にとって不安や不穏につながることも考えられる。迅速な対応が求められる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望と家族等の協力を得ながら、馴染みの家具・テレビ・カーペット等が持ち込まれ、壁には時計・カレンダーが掛けてある。また家族の写真や生花なども飾られており、その人らしく落ち着いて過ごせるよう、居室づくりを工夫している様子がうかがえる。		